

平成 26 年度（2014 年度）セタシジミ産卵前肥満状況

磯田 能年・石崎 大介

1. 目的

産卵期直前のセタシジミの肥満度（軟体部乾燥重量／満水全重量×100）は産卵量の指標であると考えられており、資源変動の重要な要素となっている可能性がある。そこで琵琶湖北湖一円の漁場においてセタシジミの肥満度を調査した。

2. 方法

2014 年 5 月 24、25 日に琵琶湖北湖の主要 7 漁場（沖島南西・沖島東・沖島西・松原・磯・長浜・今西）を含む 16 漁場において、実際のシジミ漁業で用いられる貝桁網を用いてセタシジミを採捕した。各漁場の調査場所は過年度の GPS 記録にもとづき同一場所とした。漁場ごとに殻長 18 mm 以上の個体を無作為に 12 個体抽出し、全重量を 0.1 mg の単位まで

測定した後、軟体部を取り出して乾燥させ、軟体部の乾燥重量を 0.1 mg の単位まで測定し、肥満度を計算した。

3. 結果

全漁場の肥満度の平均は 4.58% であり測定を開始して以来、最高値となった（表 1）。琵琶湖の西部や北部で低く、東岸で高い傾向は例年と同様であった。主要漁場の平均肥満度も高く、平均値は 4.93% であった（図 1）。資源概況調査での資源量の増減は肥満度の増減による産卵量の変化が影響している可能性も考えられ、今後の資源概況調査と肥満度の継続的な調査が必要である。

表1 各漁場の肥満度

漁場名	肥満度(%)
沖島南西	4.85
沖島東	4.16
沖島西	5.47
松原	5.25
磯	5.27
長浜	5.04
今西	4.49
菖蒲	4.96
牧	5.07
新海	4.26
石寺	4.78
海津	3.94
針江	3.54
高島	4.29
鴨川	3.75
近江舞子	4.13
平均	4.58

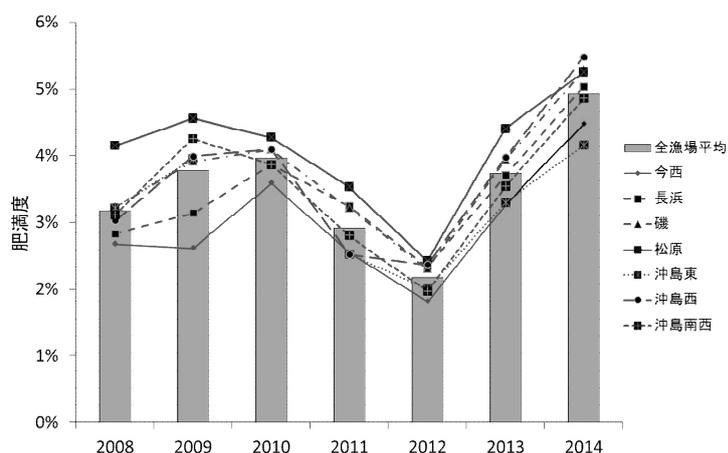


図1 主要漁場の肥満度の推移

本報告は滋賀県資源管理協議会からの調査委託事業の成果の一部である。